



記念集会の舞台上、合唱詩劇に登場した主婦会有志による「三池の主婦の子守り歌」の合唱。会場の感動を誘った。三池闘争をまざまざと思い起こさせた一場面。

三池は本籍、私の誇り

三池闘争三〇周年記念集會に参加して

粕屋 木下 幸雄

労働運動や学習会等で「三池闘争」の言葉の知らない時はない程、史上に名を残す三池闘争の二十周年記念集會が、十二月七日十三時より大牟田市民会館ホールで開かれました。

三池炭鉱を解雇された私も、再就職して大牟田を去るまでお世話になった地域分會の活動家から、記念集會へ参加するようとの連絡をうけ、出席しました。

あれから二十年。そんなにもなるのかと計算したら、間違ひなく二十年です。黒々とした髪だった人も、今は白いものが光っているそれは、労働と差別に苦しんだ証明と受けとめる以外にはありません。

声をかけられ、思い出す顔。だが、名前までは思い出せません。



記念集會には、各地から懐しい顔の訪れが……

自己紹介されて、やっと浮かぶ二十年前の友。知人の近況を尋ねる等々。これらの人たちは今後ともと、すでに定年退職された人。入った労働者としての歴史の上に院加療中の人。残る数カ月で定年

労働者だった事の誇りに生きられる事と信じた。

来賓として出席された当時の総評太田議長や副議長長だった久保田さんは、闘争指導者として詫びておられたようですが、労働組合としてやらなければならぬ事をやっていた結果であった、と思います。「労働者は時に勝つ事もある」という言葉通りだと感じた次第です。

作者不詳

三池の火

三池闘争から二十年の歳月が経った。荒れ狂った石炭政策で、会社は千二百名の生首を切った。かくてエネルギー革命は始まった。

去るも地獄。残るも地獄。先輩たちは路頭に投げ出され、我々は相つぐ合理化の波をものにかぶった。危険な職場環境。なりふりかまわぬ増産体制。

三池労組は私の本籍であり、言

寒ハゼ釣りいかが

ポイントはどこに？

有明海のはぜは、寒くなると大きくはなるが、私のようにヤセは

とてしまふ。ところが、島原の口之津へ小浜間に京泊港があって、このハゼは寒さがきびしくなるにつれ、ま

秋の歌

(つづき)

短歌

二十分會(三川) 町

佳郎

庭隅に野菜など植えんと思ひ立ち種子いく袋運る花舗の前
虫の音もすでに果てたる畦道(くろみち)に銀の尾花の月明りせり
夕暮れの坂のぼりくれば大きな梧桐(きり)の枯葉の風に鳴る音
「秋の歌」ページめくれば遠くくる古書贈(あがな)いて読み思ひ出
たまわし歌集読みつゝ風の夜まどかなる月のわが窓照らす



職場五分會(四山)の新聞「きずな」七十号(十二月五日発行)から。(宮崎勝・記)

